

令和4年3月4日

令和3年度
発達障害児者地域生活支援モデル事業

事業報告

社会福祉法人 はるにれの里
札幌市自閉症者自立支援センターゆい 奥山 勇

今年度の取り組み

- ① コーディネーターを軸にしたモデルケース支援
- ② 家族支援プログラムの開発と実践
- ③ ラポール形成のためのアイデア集作成
- ④ 研修会の実施
- ⑤ 企画・推進委員会内でのケース検討

① コーディネーターを軸にしたモデルケース支援

発達障がい特性を背景にもつひきこもりケースにおいて、チーム支援におけるコーディネーターの果たす役割、効果的な介入方法等を明らかにし、情報提供する。

5つのモデルケースのコーディネート機関 (通称: CN5)

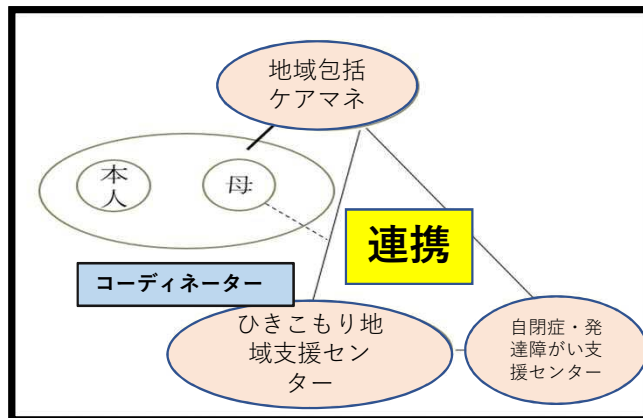
1. さっぽろ若者サポートステーション
2. ひきこもり地域支援センター
3. 相談室あさかげ
4. 東区第1地域包括支援センター
5. 札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる

✓コーディネーター機関が中心になり、各ケースに必要な関係機関と連携。チームによる支援を展開。

✓月に1度、5つのコーディネーター機関が集い、各ケースの支援内容を報告、確認 (左下写真: CN5会議)。

✓11月、1月に大正大学教授近藤直司先生から各ケースにおいてのスーパービジョンを受け、支援の方向性やケースワークの考え方についてご助言いただく。

✓第2回研修会にて「コーディネーター機関 (CN5) の機能、役割」「連携したことでわかったメリット」「他機関と連携するための繋がり方の工夫」を中心に参加者に報告。



※支援ネットワーク形成例

ひきこもり地域支援センターのケース

② 家族支援プログラムの開発と実践

(通称ファミリープログラム)

発達障がい特性を背景にもつひきこもりケースのご家族を対象に、主に発達障がいの観点を含めた家族支援プログラムを開発、実施し効果を検証する。

発達障がいの行動特性をもつご本人が
ひきこもりがちなご家族向け
ファミリープログラム

本プログラムは、ご家族の中にひきこもりがちな状況にある方がいる方向けのプログラムです。ひきこもりがちなご本人を対象としているものではありません。ひきこもりがちなご本人の周囲のご家族が、どのように理解すればよいのか、関わっていけばよいのかを考えていくプログラムです。

第1回 9月28日(火) 13:30~14:30 テーマ：自分を知らろう	 【対象】 <ul style="list-style-type: none">○ひきこもりがちなご家族をもつ家族の方で、支援機関の推薦のある方○原則6回のプログラムに参加できる方 【参加方法】 <ul style="list-style-type: none">○ご利用している支援機関から支援者の方と一緒にオンラインでの参加 【定員】 <ul style="list-style-type: none">○5家族程度 【内容】 <ul style="list-style-type: none">○全ての回で簡単なワークをしながら支援者と一緒状況を整理します。○宿題があることもありますので、可能な範囲で取り組んでください。○欠席の際は、録画を支援者と視聴して受講してください。
第2回 10月5日(火) 13:30~14:30 テーマ：本人を知らろう	
第3回 10月12日(火) 13:30~14:30 テーマ：本人を繋ぎ止める行動を知らろう	
第4回 10月19日(火) 13:30~14:30 テーマ：本人の行動を予防する	
第5回 11月2日(火) 13:30~14:30 テーマ：自分の振る舞いを考える	
第6回 11月16日(火) 13:30~14:30 テーマ：当事者からの声とまとめ	

【申し込み/お問い合わせ】
お申し込みは、ご利用の支援者にお伝えください。支援者の方は所定の申込書に必要事項を記入してメールでお申し込みください。(一次締切7月28日)
Mail sapporo-hattatsu@harunire.or.jp 札幌市自閉症者自立支援センター 内
Tel 080-3694-1950 担当 奥山

✓プログラム (全6回) のテーマ

第1回：自分を知らろう

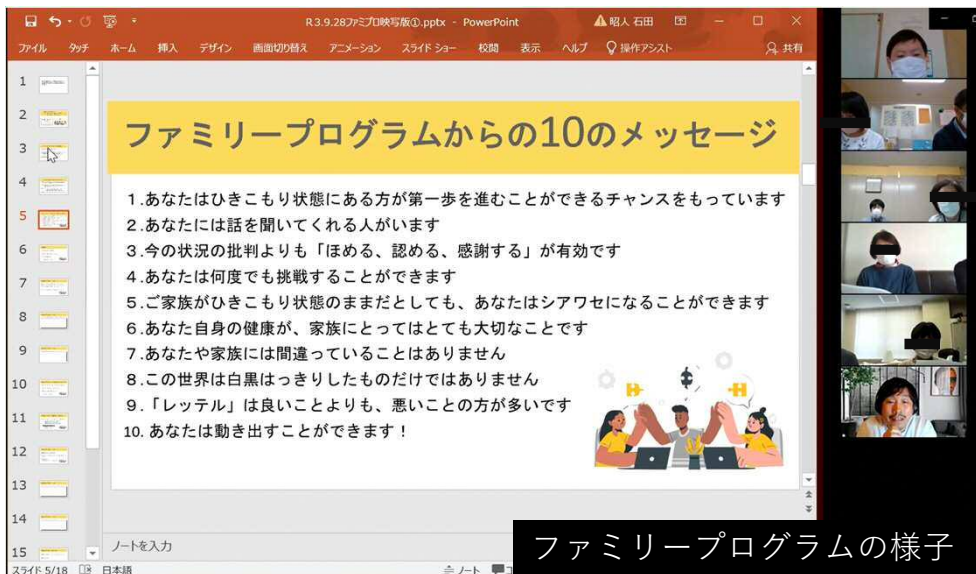
第2回：本人を知らろう

第3回：本人を繋ぎ止める行動を知らろう

第4回：本人の行動を予防する

第5回：自分の振る舞いを考える

第6回：当事者からの声とまとめ



プログラムに参加されたご家族の声 (一部抜粋)

- ひきこもりをしている人は想像力が乏しいことがあるということがわかって、少し理由がわかった。
- 本人の話をよく聞くことが大切であることがわかった。
- 他の家族の事情が少し見えて我が家も前向きに会話を重ねることができた。
- 他のご家族の話やどう接しているかなどが参考になってよかった。プログラム内のワークでは、行動や考え方をまとめることができて良かった。
- 普段、本人についての話や不満点、自分の気持ちなどを話す機会がなく、本人はもちろんのこと家族のことや今後のことについて話し合いができたのは本当によかったです。

本来感尺度質問項目別の平均値 プログラム前後での比較



④ 研修会の実施

相談支援に携わる支援者に向けた研修会を2回（8月、1月）実施。地域包括支援センター、相談支援事業所、行政、就労機関等の相談業務に携わる方に多くご参加いただけた。大正大学教授近藤直司先生によるご講義、モデル事業の取り組みの紹介、グループディスカッションがテーマとなる。

近藤直司先生 ↓



研修会の様子

第1回

発達障害者地域生活支援モデル事業
発達障がい特性を背景にもつ
ひきこもりケースのチーム支援 vol.1

発達障害者地域生活支援モデル事業において昨年度は地域包括支援センターの皆さまとモデル事例として協働支援を実施しました。その結果、高齢、障がい、医療分野等、コーディネーターを軸とした幅広い分野の機能的な機関連携によるチーム支援が重要であることが確認されました。今年度の本研修においては近藤直司先生からの講義を通じて発達障がい特性のある方のひきこもり支援についての学びを深めると、グループディスカッションや意見交換を通じてそれぞれの業務を越えたネットワークづくりをする場として有意義な研修となることを目指しています。是非ご参加いただき、お力添えの程宜しくお願い致します。

主催：社会福祉法人はるにれの里

【日時】 8月31日（火）10：00～15：00
【参加方法】 ZOOMによるオンライン研修
【対象】 委託相談支援事業所、行政機関、医療機関、地域包括支援センター等で相談支援に関わる職員の皆さま

～当日のタイムスケジュール～
9：30～10：00 受付
10：00～11：45 「発達障がい特性のある方のひきこもり支援の考え方」 大正大学教授 近藤直司先生
11：45～12：00 質疑応答
12：00～13：00 昼休み
13：00～13：15 「ひきこもり支援において、多領域をまたいで機関連携を行う上でのコーディネーターの役割について」 札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる 石田 昭人 氏
13：15～14：00 「機関連携、チーム支援での効果、工夫、困りごとについて」 札幌市自閉症・発達障がい支援センターおがる グループディスカッション
14：00～14：10 休憩
14：10～14：30 グループ発表
14：30～15：00 近藤直司先生から感想、ひとこと

— お申込み・お問い合わせ —

Googleフォーム <https://forms.gle/JhTkuY9a0bwr6vG6A> よりお申込みください。前日までに参加者の方へZOOMミーティングURLをメールにてお送り致します。

お申込み

締切 8月24日

※定員になり次第締め切りさせていただきます。大変な事業のご人数制限をさせていただきます。お断りの場合は8月27日までにご連絡致します。

お問い合わせ

TEL 080-3694-1950 MAIL sapporo-hattatsu@harunire.or.jp
札幌市自閉症者自立支援センターい 担当 奥山

第2回

令和3年度 発達障害者地域生活支援モデル事業
発達障がい特性を背景にもつ
ひきこもりケースのチーム支援 vol.2

発達障害者地域生活支援モデル事業におきまして今年度はひきこもりケースにおけるコーディネーターを中心としたチーム支援、ひきこもりの方のご家族を対象とした家族支援（ファミリープログラム）、当事者の方とのラポール形成のためのアイデア集行楽会を軸として実施しています。途中経過ではございますが、上記事業について、皆様と共有させていただければと思います。また、今年度の本事業における取り組みについて大正大学の近藤先生からスーパージョンを受け、皆様と今後の連携の在り方をお互いの実情を考慮してまいります。是非ご参加ください。

主催：社会福祉法人はるにれの里

【日時】 1月25日（火）13：00～16：00
【参加方法】 ZOOMによるオンライン研修
【対象】 委託相談支援事業所、行政機関、医療機関、地域包括支援センター等で相談支援に関わる職員の皆さま

～当日のタイムスケジュール～
13：00～14：15 モデルケース事例報告（5ケース）
～コーディネーターを中心としたチーム支援～
14：15～14：35 ファミリープログラム支援報告、ラポール形成におけるアイデア紹介
14：35～14：45 休憩
14：45～15：25 グループディスカッション
15：25～16：00 総評 大正大学教授 近藤直司先生

— お申込み・お問い合わせ —

お申込み

Googleフォーム <https://forms.gle/CJKUWd2FUCIZ4FR8>
上記URLまたはQRコードよりお申込みください。
前日までに参加者の方へZOOMミーティングURLをメールにてお送り致します。

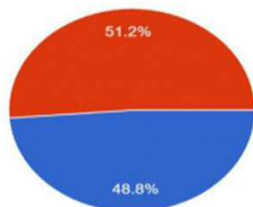
締切 1月15日

※定員になり次第締め切りさせていただきます。大変な事業のご人数制限をさせていただきます。お断りの場合は1月18日までにご連絡致します。

お問い合わせ

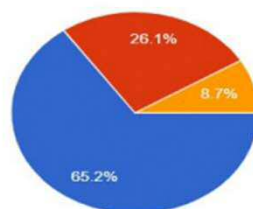
TEL 080-3694-1950 MAIL sapporo-hattatsu@harunire.or.jp
札幌市自閉症者自立支援センターい 発達障害者地域生活支援モデル事業 担当 奥山

研修を受講し、ひきこもりへの理解度について
41件の回答



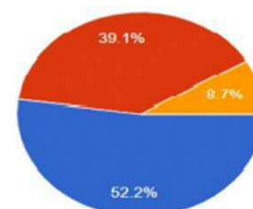
- よくわかった
- 少しわかった
- 変わらない
- あまりわからなかった
- 全くわからなかった

近藤先生のお話について
23件の回答



- 非常に満足
- 満足
- 普通
- 不満
- 非常に不満

研修全体の満足度
23件の回答



- 非常に満足
- 満足
- 普通
- 不満
- 非常に不満

アンケートより一部抜粋

・「疾病性より事例性」と聞いたことはあったのに、いつの間にか疾病や診断に目を向けていたことに気づかされました。

・ネットワーク支援について、「自分ができること」ではなく、「このケースに必要なこと」を考え、支援課題の抽出、役割分担をするということが印象に残りました。

・近藤先生の講義は大変わかりやすく勉強になりました。

・近藤先生のディープなお話をもっと聞きたいです。次回も楽しみにしています。

・今後もリモートの研修が中心かと思いますが、集合研修よりも参加しやすい面もあると思います。（移動時間の短縮や昼休憩中に業務連絡ができるなど）

⑤ 企画・推進委員会内でのケース検討

✓ケース検討を通じて、発達障がい支援における考え方の共有を図る

✓ケース検討を通じて、各機関との連携において相手先の役割や守備範囲等を知り、過剰な負担を担わない範囲での連携のあり方を探る

✓困難事例においても、連携があることにより支援に取り組む支援者や支援機関が増えていくことを期待する



ケース検討の様子

1回目
児童相談所ケース

2回目
札幌市子ども発達支援総合センター
ちくたくケース

3回目
札幌市教育委員会ケース